

## 第2回研究所若手アンサンブル研究会を開催しました（2016/10/31～11/01）

テーマ：付置研究所連携

URL：[http://www.fris.tohoku.ac.jp/institutes\\_ensemble/](http://www.fris.tohoku.ac.jp/institutes_ensemble/)

平成28年10月31日(月)から11月1日にかけて、気仙沼市において「第2回研究所若手アンサンブル研究会」を開催しました。「研究所若手アンサンブル」とは、東北大学に設置された9つの付置研究所・研究センター間が相互に交流・協力することを目的とし、特に若手研究者が分野や所属を超えて交流することで、新たな研究活動の促進を目指すプロジェクトです。第2回目となる研究会では、災害研から川島秀一教授、天野真志助教（人間・社会対応研究部門）、岡田真介助教（災害理学研究部門）、杉安和也助教（リーディング大学院）の4名が参加し、各研究所から参加者45名の若手研究者とともに、研究活動の相互交流を進めました。

災害研からは、川島秀一教授が「気仙沼港の災害史」として招待講演をおこない、気仙沼港の歴史的経緯と災害と人との関わり方について紹介しました。

また、岡田真介助教は、「GRP および極浅層反射法地震探査を取り入れた総合的な活断層調査」の研究発表をおこない、各研究所の若手研究者と活発な議論を展開しました。

また、2日目には、東日本大震災以降の気仙沼市内を巡見しました。気仙沼分室にもお邪魔し、気仙沼における災害研の活動についてもご説明いただき、さまざまな専門的知見が今後災害対策や復興過程に果たす役割について考える研究会となりました。



川島秀一教授



岡田真介助教



会場の様子



気仙沼分室での見学

文責：天野真志（人間・社会対応研究部門）